

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	ふれあい館・桜本こども文化センター	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人青丘社 ・代表者名 理事長 斐 重彦 ・住所 川崎市川崎区桜本1-9-6	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H26		H27		H26		H27	
	1 ふれあい館・桜本こども文化センター ①年間延べ利用者数	65,419人	68,417人	②年間延べ利用団体数	873団体	809団体		
2 さくら小学校わくわくプラザ ①登録者数	296人	301人	②年間延べ利用者数	23,752人	22,861人			
3 大島小学校わくわくプラザ ①登録者数	198人	184人	②年間延べ利用者数	14,918人	13,490人			
4 東大島小学校わくわくプラザ ①登録者数	166人	175人	②年間延べ利用者数	15,169人	12,812人			
収支実績	単位:円							
1 収入								
指定管理料	138,363,564							
2 支出								
人件費	113,562,719							
管理費	9,692,387							
事業費	10,066,715							
その他経費	0							
合計	133,321,821							
3 差引	5,041,743							
サービス向上の取組	地域の祭りへの参加・協力、地域文化活動への支援など、地域共生の街づくりや学習支援などの中高校生・若者の居場所づくりに取り組むほか、子育て支援、外国人住民、高齢者、障がい者へのサポートなどによる、孤立化防止に努めている。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
		(評価の理由) 仕様書・事業計画書に基づき事業を運営しており、地域の文化サークルなどの団体利用も盛んであり、平日午前中や夜間帯における施設の有効活用を図っている。地域に根差した複合型施設として、中高生・若者の居場所づくり、多文化共生のまちづくり、世代間交流等を推進しており、地域で孤立しがちな外国人住民、障がい者、高齢者の参画に配慮しつつ、世代を超えた地域交流を図っている。具体的には次に記載するとおりである。 ①中高生・若者の居場所づくり: 小学校体育館を利用したスポーツ活動、キャンプ(高校生以上対象)、音楽イベントなどに取り組むほか、外国籍の子どもを含む中学生への学習支援を実施するなど、中高生・若者の居場所づくりに取り組んでいる。 ②多文化共生事業: 識字教室、生活情報学習会、入学サポートなどに取り組み、外国人住民の地域での孤立化を防ぐとともに、地域の小中学校への講師派遣による民族文化ふれあい講師事業を実施し(年間約50校)、韓国・朝鮮・フィリピン文化を伝えるなど、多文化共生教育に取り組んでいる。 ③子育て支援: 地域子育て支援センター・保育園等の関係機関と連携し、家庭訪問、プレスクールなどの育児支援を実施し、子育て世帯の孤立化防止に取り組んでいる。 ④わくわくプラザ合同事業: ドッジボール、おぼけやしき、サマーキャンプなどの3校合同行事を行い、小学校の枠を超えて、子ども同士の交流を図っている。 ⑤地域交流・共生の街づくり: 地域との連携・協力のもと、館祭りやふれあいフェスタなどの事業を実施するほか、町内会、団体と連携し、地域の祭りに事務局として参加・協力するなど、地域共生の街づくりに取り組んでおり、わくわくプラザにおいては、地域特性を活かしたクラブ活動として、「韓国・朝鮮の舞踊クラブ」「チャングクラブ」「一輪車クラブ」を設け、地域住民との交流を深めている。障がいのある子どもの積極的な受入れ、高齢者サークルのサポートなどにも積極的に取り組んでおり、平日午前中や夜間に地域の文化サークルへの施設開放、運営支援を行うなど、地域文化の活動支援にも取り組んでいる。 ふれあい館・桜本こども文化センターの利用者は前年に比して増加しており、特に中高生の居場所づくりに注力することにより、中高生の利用者は大幅に増加している。			
収支計画・実績	適切な金銭管理・ 会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費縮減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
		(評価の理由) 会計処理・金銭管理は適正に行われている。定期的に、人件費(アルバイト)・消耗品・光熱水費等の執行状況を会議等で確認することで、職員の意識を高めつつ、適切な予算執行に取り組んでおり、冷暖房の適正使用など、節電推進に取り組んでいる。			

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	4	4
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8	
<p>(評価の理由) ホームページやSNSを活用し、タイムリーに利用案内や施設ごとの事業・活動等の周知を図るほか、子どもが自主的にポスターを作成し、広報に参加するなど、ふれあい館・桜本こども文化センターの利用者は中高生を中心に増加している。また、ひらがなルビ入りの広報チラシや市民団体と連携した多言語による広報媒体の発行、区役所、病院等と連携した多言語通訳付の防災・生活学習・病院講座など、外国人住民への情報発信を進めることで識字教室の参加者も増えており、積極的な広報を実施している。特別な支援を必要とする児童への対応については、学校と連携しつつ、保護者アンケートを基に、子ども一人一人の状況を把握し、スタッフ間で情報共有のうえ、重点的に職員を配置することで、見守りや付き添いなどの適切な対応を図っている。また、利用者視点でサービスの向上を図るため、利用者アンケートや意見箱の設置、子ども会議(毎月開催)、運営協議会(年2回)を実施するほか、小学校、行政機関等の地域会議に積極的に参加し、利用者・地域ニーズ把握に努めており、各種行事の準備、プログラムに子どもの意見を取り入れるなど、子どもの参画を大切に事業への反映に努めている。わくわくプラザにおいても、保護者懇談会(年2回)を開催するほか、毎月のこども会議を通じて、利用者ニーズを把握し、合同事業を実施するなど事業反映に活かしている。また、識字教室で外国人住民のニーズを把握し、生活学習や防災講座などの要望に沿った事業に取り組んでいる。地域との連携においては、小学校の運動会での舞踊や高齢者とのキモチづけなどの交流事業を実施するほか、多文化事業の専門スキルを持った職員や通訳を学校に派遣するなど、地域の学校行事に協力し、学校等地域の関係機関との連携を深めている。また、おおひん地区街づくり協議会、町内会、公園愛護会と連携し、地域行事に事務局として積極的に関わることで、館事業の理解・協力を促し、利用促進につながるよう地域関係構築に努めている。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) ふれあい館及びこども文化センター事業の一体的な運営により、日、祝日を含め、常時2名以上のスタッフを配置し、利用者の増加や緊急時に対応できる体制が確保されており、障がいのある子どもなど、特別な配慮を必要とする子どもには、重点的に職員を配置することで対応している。また、中高生の学習支援事業時は学習支援員スタッフ1名を追加配置するほか、学生ボランティアを活用している。職員の人材育成については、法人全体研修、館全体での研修のほかリーダー研修を実施するなど、体系的な研修に取り組んでおり、実際のスマートフォン事例を基に、インターネット、守秘義務について重点的に取り組むなど、事業運営に活かしている。わくわくプラザにおいても、相互の事例検証などの合同研修を実施し、職員の資質向上に努めている。個人情報保護方針を整備し、個人情報の取扱いが適正に行われている。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	3	3
災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか					
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 施設・整備の保守点検や必要な修繕が実施されており、備品の管理も適切に行われている。始業前点検、整理整頓、終業時点検など、日常の安全確認を行うほか、施設安全点検員を選任し、隔月1回、各施設の巡回点検を実施し、安全管理体制の改善に努めている。また、感染症情報を常時、館内掲示し、子どもへの注意喚起を行うほか、衛生管理に関する職員研修を実施するなど、適正な衛生管理を行っている。また、災害時対応マニュアルを整備しており、避難・消防訓練を実施し、災害時に備えている。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

昭和63年の開館時から継続運営してきた団体としての経験・実績から、安定的な事業運営がなされている。地域に根差した施設として、地域との信頼関係を構築することで、良好な連携が図られており、今後も地域一体となった運営が期待できる。地域施設として、障がい児や高齢者の孤立化に配慮しつつ、中高生の居場所づくりや多文化共生事業など、幅広い事業に取り組み、地域交流、世代間交流を図っている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

わくわくプラザにおいては、利用人員の増加など環境が厳しい施設もあるため、安全等に十分配慮した運営を心がけること。各施設では、子どもが安全に安心して過ごせる環境を整備し、サービス水準の向上と効率的な管理運営に努めること。